

矢田貝家文書平成 24 年度調査概報

第二次・第三次調査

冨 善 一 敏

1. 平成 24 年度調査の経過

矢田貝家文書(鳥取県西伯郡伯耆町上細見)については、本誌前号の拙稿¹で調査着手の経緯と第一次調査の概要について報告したが、引き続き平成 24(2012)年 6 月に第二次調査を、10 月に第三次調査を行った。まず両調査の経過について簡単に述べる。

1.1 第二次調査

第二次調査は、平成 24 年 6 月 8 日から 11 日にかけて実施した。参加者は谷本雅之(東京大学大学院経済学研究科・教授、-10 日)、小島浩之(東京大学経済学部資料室・講師)、矢野正隆(同・特任助教)、齋藤邦明(東京大学大学院経済学研究科博士課程・日本学術振興会特別研究員)、二階堂行宣(同)、棚井仁(一橋大学大学院経済学研究科修士課程)各氏及び筆者(東京大学経済学部資料室・学術支援専門職員)の 6 名である。

6 月 8 日午前は、齋藤・二階堂・棚井・筆者の 4 名で、鳥取県西伯郡伯耆町役場を訪問し、議会事務局保管永年保存文書のうち西伯郡大幡村役場文書 62 冊(12 箱、村会議事録など)を閲覧し、戸数割などのデータを収集した。閲覧に当たっては伯耆町教育委員会生涯学習室副室長の長田康平氏に大変お世話になった。記して謝意を申し上げたい。

8 日午後に谷本氏が、夜から小島・矢野両氏が合流し、10 日夕方まで概要調査の続きを行った。終了したのは土蔵 2 階奥部屋押入西

面床上 18・21-25、同北面棚上 1-1、同床茶たんす 1-6、同南面 1-3・8-10 の 20 単位、約 11,500 点である。

また 8 日夜は国登録有形文化財(建造物)矢田貝家住宅管理者の阿部禎男氏と、9 日夜には島根大学法文学部准教授・小林准士、同・丸橋充拓、同教授・竹永三男の三氏と意見交換を行った。10 日昼には文書調査を視察された小林准士氏、米子工業高等専門学校助教の藤木竜也氏と共に、文書所蔵者の矢田貝淑朗・民子ご夫妻と現地で会食し、矢田貝家文書の来歴や整理方法について知見を深めた。



写真 1. 第二次調査(矢田貝淑朗氏ご夫妻を囲んで)

6 月 11 日は鳥取へ移動し関連資料調査を行った。まず、鳥取県立公文書館(足田晃館長)を訪問し、『新鳥取県史 資料編』の編纂に従事されている県史編さん室専門員の清水太郎氏・渡邊仁美氏と地域史料調査の現状について意見交換を行い、同館総括専門員の伊藤康氏の案内で書庫等を見学させていただいた²。

次に、隣接する鳥取県立図書館で、戦前期

の新聞や地図など、同館所蔵郷土資料の概要を調査した。最後に、近隣の鳥取県立博物館へ移動し、学芸員・大嶋陽一氏の案内で架蔵の鳥取藩藩政文書を見学させていただき、矢田貝家が近世期に所在した会見郡上細見村・日野郡大江村の土地関係文書の所蔵を確認した。また鳥取県教育委員会事務局文化財課の中森洋氏・松本絵理氏と会食し、西伯地区の文化財保存状況についての意見交換を行った。

ハードスケジュールではあったが、概要調査の進行と共に矢田貝家文書に関わりをもつ方々との交流も実現するなど、内容の濃い調査であったといえよう。

1.2 第三次調査

第三次調査は、平成 24 年 10 月 12 日から 15 日にかけて実施した。参加者は前述の小島浩之・矢野・二階堂・齋藤各氏と筆者（13 日-15 日）、及び小島庸平氏（東京農業大学国際食料情報学部・助教、12 日-14 日）の 6 名である。

12 日に先行して現地入りした小島庸平氏は、米子市立山陰歴史館で所蔵史料についての聞き取り調査を行った。他のメンバーは 13 日に現地入りし、前回に引き続いて概要調査を行った。

今回の調査終了分は、土蔵 2 階奥部屋南面 4-7、11-13、同北面棚上 1-19、同北面棚 1 段目、2 段目、土蔵 2 階手前部屋北面棚上 1-7 の合計 39 単位、約 17,800 点である。14 日には鳥取県立公文書館の渡邊仁美氏が来訪され、概要調査終了史料のうち県史編さんに必要な文書の写真撮影を行った³。

これまで合計 3 回の概要調査を実施し、調査が終了した史料は段ボール 102 箱中の 51 箱、32,200 点に達する。ようやく史料調査の第一段階である概要調査のゴールが見えてき

たといえよう。



写真 2. 第三次調査(タ方のミーティング)

2. 平成 24 年度概要調査済史料の内容

第二次・第三次調査で概要調査を行った史料の大まかな内容と点数は以下の通りである。なお記述の順番は整理時に付した箱番号の順であり、調査作業の順とは一部異なることを予めお断りしておきたい。

2.1 土蔵 2 階奥部屋押入西面床上

第一次調査に引き続き概要目録の作成を行い、終了した⁴。

- 18 : 明治 20 (1887) -30 年当座帳 11 冊。
- 21 : 明治 15 (1882) -26 年売掛帳 12 冊、同 26-37 年質物台帳・原帳・流質物取調帳・質物受取証・質貸計算帳 7 冊。19 点。
- 22 : 明治 27 (1894) -42 年売掛帳、掛取帳、掛売明細帳、通帳、同 35 年 7 月 1 日現在酒調、清酒火入器械説明書ほか。約 80 点。
- 23 : 布紐及び麻紐で十文字に括られていた。まともり毎に枝番を付す。安政 5 (1858) 年口日野郡溝口宿・長山村・大江村御年貢御請合一札帳、近世末-明治初年佐市郎（初代齊一郎）宛覚・請取類括り紐一括 7 束、明治 6 (1873) -9 年日野

郡長山村／島田村／上細見村田畑山林所持限書土地券証御下渡願帳、同 9-20 年酒造・醤油関係書類及び会見郡岸本・押口・吉定・立岩・上細見・福岡聯合会議書類留綴、同 12-27 年諸税上納受取・手形・掛取帳・注文送り状・書簡・必用書類 12 袋、同 13 年二代矢田貝平重算術記録、同 22 年玄米蔵入蔵出勘定帳、同 26 年 10 月上細見村洪水水災ケ所取調補助申請願扣、同 27 年扶持米勘定帳、同 28 年度雇人勤惰簿、連句帳ほか。約 800 点。一部写真撮影済。

24：麻紐で括られている。明治 5 (1872) 年大江村御年貢米取立帳、同 6 年役方諸事控・石代類取立帳、同 7 年公用日記簿、同 8 年区村費精算簿、同 8-10 年大江村民費賦課取立簿、同 10 年引渡方諸事記・大江村取立計算帳などの大江村公的文書、明治 15 年志保講規約書、同 14 年講帳、同 16・19 年掛取帳、同 20 年染物控帳、同 20 年所得税関係書類袋、同 20 年以降金銭借用証書、同 35・36 年書簡袋ほか。約 200 点。

25：土蔵 2 階奥部屋押入西面床上右隅の 6 塊を一括し、それぞれ枝番を付した。

-1：天保 12 (1841)・嘉永 3 (1850) 年旭嘉栄 (佐市郎諸取引附込帳)、安政 3 (1856)・4 年諸営業関係、明治 10 (1877) 年書出帳、同 17 年物品寄蔵帳、清酒ラベル版木など。約 170 点。

-2：安政 5 (1858) 年鳥取藩在方改正関係触書・書状類括り紐一括、同年佐市郎金銭出入関係証文・書状類括り紐一括、安政 6-万延元 (1860) 年大江村組頭佐市郎蠟座株御用関係書類括り紐一括、文久-慶応年間 (1861-68) 佐野川筋普請

願書・入用帳括り紐一括、亥年・寅年節季分掛取書類、明治初年請作証書・貸金証書、同 10 年代-36 (1903) 年土地証書・新宅建築及び上棟式関係書類・定一郎関係書類・貸金裁判関係書類・住吉井手関係書類・和老賀雑記ほか。約 400 点。一部写真撮影済。

-3：明治 11 (1878) -43 年流質物売払・取調・入札帳、掛取帳、酒類造石数査定簿、酒類歳出帳、蒸留帳、酒粕目方帳、当座日記帳、通帳、栃原山杉樹伐木調整日記、搗米勘定帳、勤惰簿、葉菰通、西伯郡酒造組合本部に対する注意・同予算議案、種粕売立計算帳、租税支払領収証、焼酎受払帳、復命書ほか。約 250 点。

-4：天保 14 (1843) 年判断書・嘉永元 (1848) 年周易本筮記。この 2 点は初代齊一郎が 20 歳及び 25 歳の時に、占い師の皇一貫気及び南光堂良祐に依頼した運勢鑑定書であり、嘉永 7 年の家相図が残存 (後掲土蔵 2 階奥部屋南面 2-1 段目) することと合わせ、齊一郎の心性を考える上で興味深い。ほか安政年間 (1854-60) の宛口米 (年貢・諸懸りと小作料の合計) 帳、天保・安政年間因伯通鈔 (鳥取藩札)、慶応 3 (1867) 本家矢田貝周一郎鶴寿につき平兵衛と改名状、明治 18 (1885) -28 年矢田貝平重寄附記録、同 22 年鳥取県汗入・会見・日野三郡組合清酒研究会規則など。約 100 点。一部写真撮影済。

-5：弘化-安政年間 (1844-60) 大仙内取付米・取立関係一括、明治 18 (1885)・19 年地券、同 20 年矢田貝寿恵手習帳、同 30 年代酒造組合第二区関係袋、同 21 年汗会倶楽部規則、同 21-23 年諸税費

徴収切符領収証入（久古村戸長）、同 24 年個人別通帳、同 30 年部内耕宅山野会計表、同 33-40 年書簡、尋常小学校授業料定額規定ほか。約 630 点。

-6：明治 3（1870）-14 年書出・通帳、同 8-27 年矢田貝宛請求書類綴、同 16-18 年日野郡戸長役場宛領収書類一括、同 31 年尾高村・日吉津村戸長役場関係諸税領収証、同年有用書類一括、同 30 年代書簡類ほか。約 2,500 点。

2.2 土蔵 2 階奥部屋北面

棚上に紐で括られた文書の塊が並べられており、向かって左から順に番号を付した。また棚下 1 段目の右上隅に年次を記した札付きの括り紐一括文書が 4 つ、及びその下の箆笥 3 つのうち 2 つの引出の中に写真資料があったので、それぞれ棚第 1 段目、棚第 2 段目（たんす引出）と番号を付した。概要目録作成終了。

棚上 1：明治 45（1912）-大正 11（1922）年宛口米取立帳・同庭受帳、当座日記帳、日雇当座日記帳、連年宛口不足覚。明治 30-大正初年の二代矢田貝平重・三代猶治宛書簡括り紐一括。約 570 点。

棚上 2：明治 30（1897）-大正初年利子領収証、「日雇」と上書きのある袋に入った明治 25 年雇人受状入雇用契約書 15 袋、同 37 年第三銀行当座預金通帳、同 40 年代預金証書、同 33 年車賃控。同 28 年第八十二銀行当座預金通帳、同 29 年共済生命保険合資会社保険規則ほか。約 160 点。

棚上 3：明治 31（1898）年婚礼書類 1 袋、同 33 年汗入郡土地関係書類 1 袋、同 38 年領収証・約束手形・預金通帳、同 35-44 年矢田貝猶治宛書簡ほか。約 250 点。

棚上 4：大正 4（1915）・5 年矢田貝酒造店宛書簡、矢田貝猶治宛年賀状。約 90 点。

棚上 5：明治 35（1902）-38 年大阪築港・中国鉄道株式会社公債募集関係書類、明治末年大阪商品株式会社営業報告書、明治末-大正初年米子銀行・山陰電気・山陰実業銀行関係書類、大正初年株主総会委任状葉書ほか。約 490 点。

棚上 6：「遠藤一件」袋（明治 44(1911)年矢田貝(遠藤)佐和(三代猶治妹)分家関係）、明治 30-40 年代住田宗一（溝口在住）関係書簡、「壬寅六月来輸入 遠藤ヨリ」袋、同 30 年代金銭借用証書、同 42-大正 2（1913）年支払明細表ほか。約 150 点。

棚上 7：明治 37（1904）年米子法勝寺町糸井重平通帳、同 30 年代の書簡類ほか。約 100 点。

棚上 8：4 束に分かれる。明治 39（1906）-大正 4(1915)年森脇タキ(三代猶治妹、松江在住)・同新寿郎書簡、大正 3 年四代矢田貝顯造子供時代の日記ほか。約 250 点。

棚上 9：文化 12（1815）年溝口宿・大江村野論、享保元（1716）年日野郡大江村水帳写（抜粋）、嘉永年間（1848-54）藩役人との書状、安政 4（1857）年土地売渡証文、明治 6（1873）年煙草並雜穀運送願、明治初年戸長辞令、同 17 年志保講関係文書、同 30 年鳥取県・島根県実力豪家財産録、同 35 年訴訟費用内訳帳、同 38 年愛国婦人会書類入、同 44 年生口幸三郎発起講証書、日野郡高等小学校同窓会規則、書簡類ほか。約 550 点。一部写真撮影済。

棚上 10：質札用紙、大正 3（1914）年毎日

便覧、宅地賃貸価格調査関係ほか。約 120 点。

棚上 11：明治 30 (1897) -大正年間矢田貝もと（三代猶治妹、松江高女）帰省願・学資金出簿、請求書、領収書、書簡、パンフレット、地図、新聞、レコードカタログほか。約 300 点。

棚上 12：明治 23 (1890) -大正 15 (1926) 年三代矢田貝猶治宛書簡ほか。約 320 点。

棚上 13：「大正十五年度」の札を付した括り紐一括。株主総会通知、営業報告書、書籍目録、鳥取県山林会報、鳥取県海外協会設立、迅雷新報、仁寿生命保険会社案内、書簡類ほか。約 270 点。

棚上 14：「大正十五年度」の札を付した書簡類括り紐一括。約 70 点。

棚上 15：「大正十五年分親類より」の札を付した書簡・年賀状括り紐一括。約 150 点。

棚上 16：「昭和二年度」の札を付した書簡類括り紐一括。「昭和貳年知人より」、「昭和貳年親族より」、「昭和貳年雑（銀行会社等）」の札あり。約 430 点。

棚上 17：「昭和三年度」の札を付した書簡類括り紐一括。「昭和三年知人重要」の札あり。営業報告書 21 点あり。約 300 点。

棚上 18：「昭和四年度」の札を付した書簡類括り紐一括。競馬関係、営業報告書、農政時報、業界新聞、証券会社報あり。約 830 点。

棚上 19：「昭和六年」「昭和七年」の札を付した書簡類括り紐一括。農会議案書、美術商案内あり。約 670 点。

棚第 1 段目-1：「昭和八年度」の札を付した書簡類括り紐一括。上細見区長矢田貝

顯造宛受取、昭和 6 (1931)・8 年大幡村特別税戸数割負担歩合、大幡村議会議案、株式・保険関係文書あり。約 450 点。

棚第 1 段目-2：「昭和六年度」の札を付した書簡類・名刺括り紐一括。約 320 点。

棚第 1 段目-3：「昭和参年親類より」、「昭和四年年賀状纏」、「昭和五年度」の札を付した書簡類括り紐一括。約 390 点。

棚第 1 段目-4：「昭和九年」の札を付した書簡類括り紐一括。上細見区長矢田貝顯造宛書簡、溝口村役場・日野川漁業組合・大幡村農会・経済更正委員会作成文書、大幡村村勢一覧あり。約 520 点。

棚第 2 段目（たんす引出）-1：北面棚下向かって左の箆笥 2 段目のもの。明治 40 (1907) 年 6 月 3 日撮影家族写真、米子中学集合写真（四代矢田貝顯造入学・卒業時、五代矢田貝淑朗）、昭和 40-50 年代矢田貝顯造叙勲写真、大正 2 (1913) 年 5 月 17 日ほか撮影大幡村関係者集合写真（自治表彰式記念及び西伯郡立物産陳列場前にて、三代矢田貝猶治）、明治 37 年 3 月 25 日撮影矢田貝もと（猶治妹）松江市立高等女学校寄宿舍一同集合写真ほか。11 点。

棚第 2 段目（たんす引出）-2：北面棚下中央の箆笥 1 段目のもの。矢田貝猶治額縁入写真、明治 43 (1910) 年 10 月 3 日撮影上野山堤塘北側茸狩記念写真（矢田貝猶治）、明治 30 年 1 月 27 日西尾馬蔵（鳥取市二階町一丁目）撮影鳥取市内写真、明治 30 年代前半矢田貝猶治中学時代友人写真ほか。約 80 点。

2.3 土蔵 2 階奥部屋南面

南面隅にあり、押し入れの反対側に位置する。1-3 は茶箆箆 (4-13) の上にあった。概要目録作成終了。

1 : 未使用分の土地台帳用紙 1 束 (美濃判 約 300 枚)。

2 : 蓋付き木箱 (3 段、高 62 cm) に、近世期の版本が平積みされていた。

1 段目 : 宝暦 9 (1759) 年『忠しん蔵』(裏表紙に「井澤姓」の書き入れあり)、天保 7 (1836) 年『唐詩選絵本 七言律』2 冊 (同左)、『唐詩選国字解』(同左)、『石堂丸菰萱物語』4 冊、寛延元 (1748) 年『再版仮名手本忠臣蔵』、『源平盛衰記 神崎揚屋段』、『三人上段 布引瀧の中』、『木下狭間』、『道成寺現在地鱗日高川の段』がある。また明治期の天照皇大神・八幡大神・春日大神、天照皇大神・豊受大神・猿田彦大神の巻物 2 点、及び天照皇神宮・春日皇大神・男山八幡・高野山福智院の神札 6 枚が、明治 29 (1896) 年 3 月 1 日付の鳥取新報に包まれていた。

特記すべきは、「家相図面袋 庚申季春 確然堂撰」と上書された袋に、安政 7 (1860) 年の家相図 4 枚及び関係書類・方位鑑定書 14 点、安政 2 年『八将神方角標根暦之次第其外記録』、天保 9 (1838) 年『諸金神巡之伝』の各文書が入っていることである。初代齊一郎が上細見村に家屋を新築し分家するに当たり、鑑定人の中原氏に方角鑑定を依頼した際のものであろう。40 点。一部写真撮影済。

2 段目 : 享和 2 (1802) 年『農家益』3 冊、元禄 16 (1703) 年『通俗列国志呉越軍

談』17 冊 (巻 17 欠)、宝永 2 (1705) 年『朝鮮軍記大全』12 冊 (第 11-20 冊及び附録上下)、『筆道稽古早学問』3 冊 (巻 1・2・4)、大本山永平寺宛書簡 1 点。36 点。

3 段目 : 宝永 2 (1705) 年『朝鮮軍記大全』1 冊 (序・総目録・附録)、宝暦 10 (1760) 年『通俗宋史軍団』20 冊、寛永 2 (1625) 年『通俗列国志』24 冊、天保 3 (1832) 年『大和往来』1 冊、『筆道稽古早学問』1 冊 (巻 3)。47 点。

3 : 未使用の表装用紙 1 束 (約 30 枚)

4 : 【以下 13 までは、高 86cm・横 81cm の木製箆箆 (5 段×2 列) の各引出である。左上→左下、右上→右下の順に番号を付した。明治・大正期の重要度の高い一件書類が事項別に分類され、表題 (「 」で示す) を付して袋に入れられていた。】

明治 42 (1909) 年 9 月「毎日会書類入」(積金貸付、メンバーは矢田貝猶治・矢田貝繁夫・堀亀太郎・谷本初蔵・野口武次)、「矢田貝合名会社要用書類」(明治 31 年 9 月 29 日「当会社設立関係書類」、同 37 年 4 月「矢田貝合計会社ヨリ引継ぎ貸付証書在 附関係帳簿」の 2 袋に分かれる)、同 42 年 8 月 12 日済口「米子平のや (平野屋) 講済口」帯封一括、自明治 30 年度「所得調査書類」、神国生命保険会社関係書類ほか。約 180 点。

5 : 明治 36 (1903) -37 年「要用書類在中」(貯蓄預金通帳、諸銀行定款、火災保険申込書)、大正 5 年買入「土地関係書」(米子貸家関係図面・賃借証・修繕内訳明細書)、大正年間米子家畜市場株式会

社関係、徴兵保険関係、借入金証書ほか。約 220 点。

- 6 : 明治 44 (1911) -大正 7 (1918) 年「米券倉庫」(西伯米券倉庫株式会社、矢田貝猶治 12 株所持)、大正 8-9 年「第三銀行」、明治 43-大正 9 年「岸本唯蔵発起講」、大正 4-9 年「第三銀行米子支店」、大正 3-6 年「東京国債株式会社」、明治 42-大正 5 年「牛馬」(牛馬札、売買手数料領収書ほか)、明治 44-大正 6 年「(米子) 家畜市場株式会社」(矢田貝猶治 20 株・同栄造(猶治妹さわ夫)3 株所持)、明治 44-大正 6 年「瓦斯」(関西瓦斯・山陰瓦斯・大正瓦斯各株式会社)、明治 43-大正 5 年「山陰製糸株」(矢田貝猶治 26 株所持)、明治 40-大正 8 年「水力電気株」(山陰電気株式会社、矢田貝清茂(四代顯造弟)5 株所持)、明治 33-大正 6 年「野坂講証書」、大正 6-7 年「大幡信用組合 附大幡村関係書類」、大正 5-6 年「山陰実業銀行」。約 520 点。一部写真撮影済。
- 7 : 矢田貝家二代平重から三代猶治への相続時に作成された諸文書 6 袋。「明治四拾貳年度 買得登記入」、「第壹号 相続書類入」、「第貳号 相続登記書類」、「相続登記書類入 日野郡」、「明治参拾七年九月貳拾日初 買得登記書類入 第壹号」。約 330 点。
- 8 : 大正 10 (1921) 年「本矢田貝宛口米領収証控入」、明治 45 (1912)「信用組合書類入」(大幡信用購売組合、矢田貝猶治)、明治 26-大正 2 年「地所・役場要用書類 附諸役所」、明治 40-大正 2 年「売渡土地関係書類」、明治 40 年 9 月「鳥取県日野郡溝口村大字上野村図面」2

枚、大正 3 年「宛口不足関係書類入」、明治 18-大正 6 年土地登記・売買関係書類括り紐一括 5 束、「内田兼三にかかる土地担保金融一件」集金鞆入資料(明治 34 年戸崎郁三発起貯金組合規約など)ほか。約 300 点。

- 9 : 大正初年の諸書類。「大正大節季書類」、「大正元年盆節季計算関係書類」、「大正貳年大節季」、「大正参年盆迄」、「大正参年盆後」(大正 3 年度鳥取県西伯郡大幡村歳入出追加総計予算あり)、「大正四年盆前」(「紅参白参運修正各種 北辰堂矢田貝人参部 鳥取県西伯郡大幡村大字上細見」の便箋あり)、「大正四年盆後」、明治 41-43 年材木関係書類括り紐一括、書簡類ほか。約 450 点。
- 10 : 賞状などの塊を便宜的に 3 束にまとめた。明治 26 (1893) -大正 5 (1916) 年矢田貝平重・猶治宛褒賞状、卒業・修了証書、清酒・米品評会賞状、明治 33 年日本尚兵義社社員証、同 37 年日本赤十字社社員証、同 39 年伊勢神宮参拝関係、同 39 年火災保険証券、明治 24 年 12 月整冊「就業証書在袋 自公立溝口小学校在校 矢田貝猶治」袋入一括。50 点。
- 11 : 嘉永 5 (1852) 年 7 月志儀控(初代斎一郎加入講掛金記録)、明治 25 (1892) -29 年貸借証書返来纏、同 37 年生田未木三郎発起講第五番帳、同 31-36 年久保講・共立講・昌栄講関係括り紐一括文書、同 31-38 年証書類控(講金関係)、同 31 年酒家生命保険会社関係書類、大正年間仁寿生命・西伯関係株式・国益醤油株式・伯耆農業倉庫会社関係書類、中国貯蓄銀行・鳥取県農工銀行・山陰実

業銀行溝口支店・米子信託株式会社関係書類など。約 350 点。一部写真撮影済。

- 12 : 「自作書類入」(安政 2(1855)年手作稲数控帳、明治 18(1885)年種籾苗代仕立控)、明治 27-大正 4 (1915) 年「講」、明治 41 年山陰水力電気敷地料、明治年間矢田貝合名会社金銭控綴(貸借対照表あり)、大正 3 年 7 月動産台帳、同 4 年 9 月「風害調査」、同 5 年鉄道用地被買収関係書類(伯備線、土地分筆登録書・通知書・承諾書・補償金関係書類など)、同 5 年 3 月「契約証書」・「用紙類入」・「銀行用報告書」・「以治書類入」・「買本貸証入」、同 7 年「領収証入(本矢田貝)」・同年「受付書類」、同 7 年米子銀行関係書類、同 9 年「株式関係書」ほか。約 380 点。一部写真撮影済。

- 13 : 明治 21 (1888) -大正 6 (1917) 年溝口・岸本・五千石・八郷・旭・大幡ほか諸役場領収証類。一部袋入り。約 3,100 点。

2.4 土蔵 2 階奥部屋床茶箒筍

押し入れと正対する茶箒筍(3 段×2 列)、寸法未計測。左上→左下、右上→右下の順に番号を付した。重要書類を入れたものか。概要目録作成終了。

- 1 : 昭和 2 (1927) 本矢田貝宛口米取立根帳、同 3 年宛口米取立日記帳、同 21 年商品出納簿(洋装) 3 冊、大正 10-昭和 35 年の各年別袋入り及び紙綴一括の諸領収書。約 1,000 点以上。
- 2 : 大正 5 (1916) -昭和 15 (1940) 年金銭出納簿(洋装) 7 冊、昭和 3-14 年当用日記(洋装) 11 冊、同 12・14 年小野山・岸本山林見積書 2 冊。20 点。

- 3 : 昭和 26 (1951) -28、35-37、48・49 年博文館当用日記 8 冊、同 19-26 年の日記・出納簿(ノート・払込票綴)、袋入り明治 42-大正 5 (1916) 年請作証、昭和 40・41 年領収証ほか。約 400 点。

- 4 : 昭和 3 (1928) -18 年金銭出納簿(洋装) 8 冊、同 13-18、38-43 年当用日記 11 冊。19 点。

- 5 : 昭和 6 (1931) -21、28・29、36-39 年諸領収書入 22 袋(電燈料・新聞代・医療代・郵便物・小為替金・各種税・区費・銀行利子・保険・旅行・商店・電話代ほか)。約 3,100 点。

- 6 : 明治-大正期矢田貝家家相絵図袋入り一括(方鑿人福井義介)、明治 8 (1875) 年溝口宿・長山村境内耕宅地一場限反別絵図、同 23 年大幡村字上細見村図(明治 42 年写)、同 24 年立岩村絵図、大正 5 (1916) 年大幡村大字立岩・吉定字限図、大正年間債権譲渡状・委任状、昭和 19(1944)・23 年金銭出納簿、同 29-34、44-47 年博文館当用日記 10 冊、同 22-33 年諸領収書入 10 袋ほか。約 1,500 点。

2.5 土蔵 2 階手前部屋北面

棚上に奥部屋と同様に紐で括られた文書の塊が並べられており、向かって左から順に番号を付した。概要目録作成未完。

- 棚上 1 : 「昭和十年度」の札を付した書簡類括り紐一括。昭和 9 (1934) 年日野川漁業組合規約、同 11 年度大幡小学校経常費予算、自作農創設維持申請者調、大幡村会議案、同選挙肅正会委員委嘱状あり。約 640 点。

- 棚上 2 : 「昭和十年度」の札を付した書簡類括り紐一括。古美術・古書籍の売立目録あり。約 550 点。

棚上 3:「昭和十二年度」の札を付した書簡類括り紐一括。四代矢田貝顯造が大幡村村会議員時期のもの多数。小作争議調停申立、軍事郵便、売立目録、昭和 11 (1936) 年 12 月 10 日付松江高校同窓会報あり。約 700 点。

棚上 4:「昭和十三年」の札を付した書簡類括り紐一括。軍事郵便、山陰土地株式会社決算報告書あり。約 570 点。

棚上 5:「昭和十四年度」の札を付した書簡類括り紐一括。昭和 14 (1939) 年大幡村村勢一覧、雑誌『尚古』19 冊、『村口書房古典目録』・同出版目録 11 冊、古美術・古書籍売立目録ほか。約 640 点。

棚上 6:「昭和十五年」の札を付した書簡類括り紐一括。8 束。昭和 27 (1952) 年運輸省細田吉蔵氏書簡あり。約 930 点。

棚上 7:「昭和十六年度」の札を付した書簡類括り紐一括。売立目録多数。追補責任溝口森林組合定款、大幡村米穀増産計画書、松江高校同窓会会報 15 号、鳥取県山林会報 27 号、『教養放送』、『生活にラジオ』など雑誌類あり。約 830 点。

3. 調査成果の一端：初代齊一郎と蠟座株

前号拙稿でも記したが、矢田貝家文書の調査成果を参加メンバーが共有し、日本史・経済史・農業史などの関連学問諸分野を統合した学際的総合調査研究を行うために、矢田貝家文書研究会を随時行っている。

平成 24 (2012) 年 3 月 26 日に第 5 回研究会を開催し、長野県中野市の地主・地域名望家である山田庄左衛門家文書を対象としたすぐれた研究である、国文学研究資料館アーカイブズ研究系編『近世・近代の地主経営と社

会文化環境:地域名望家アーカイブズの研究』(名著出版、2008 年) 所収論文の読書会を、齋藤邦明・小島庸平・二階堂行宣各氏と筆者が分担して行った。矢田貝家の地主経営と公職・文化活動を総合的に把握するアプローチについて、本書の方法と視角に学びつつ検討した。

平成 25 年 2 月 1 日には第 6 回研究会を開き、概要調査の際に写真撮影した史料を分析した小島庸平「矢田貝家小作人の契約小作料と階層性」、富善一敏「近世期初代齊一郎の経営活動についての史料・データ」の 2 報告を行った。以下筆者の報告の一部を簡単に紹介することで、嘉永 7 (1854) 年に隣村日野郡大江村から分家した矢田貝家初代齊一郎の経営活動の一端について述べたい。なお使用する史料は特に注記しない限り、全て土蔵 2 階奥部屋西面床上 25-2 の内の一括文書である。

商品作物の蠟は明和 2 (1765) 年以降、領主鳥取藩の専売制であった。宮原村の大江豊蔵が日野郡の蠟実を買い付けたが、遅くとも文化 6 (1809) 年には米子蠟座が創始され、奥会見郡の蠟実絞りは停止された⁵。安政 6 (1859) 年 2 月、大江村組頭佐一郎(齊一郎)は、次のような願書を藩の在方役所に出している。

乍恐奉願上口上之覚

一近年植物方御趣意結構被 仰出候付而者、諸苗御渡し被為遣、植付追々盛木実分益分ニ相成一同難有仕合ニ奉存候、就中日野郡之儀者山分ニ而蠟土地ニ相応仕候へ共、米子蠟座迄道法四里、其余者順々七八里拾里余之所ニ而、蠟実拾貫目ニ付式匁位より道法ニ随ひ五六匁余も駄賃相嵩、一統蠟座御用懸蠟打出し御免被 仰付被為下候得者、

生蠟一旦御上納申上、右蠟私江御渡し
被為下候ハ、蠟燭・煉油等成丈ヶ下
直ニ御郡中売捌、全下モ方為筋ニ相成
候様仕度奉存候、全体当御郡之儀者蠟
座株無御座、第一雲州其外諸国より蠟
燭持参売事仕、銀子不少他国へ持帰り
候間、御国産ニ而売弘候得者全御国益
ニ相成難有仕合ニ奉存候、尤御運上銀
奉差上度、何卒格別之御評儀を以蠟座
株被 仰付被為下候様、偏ニ宜奉願上
候、以上

願主大江村組頭

安政^(六)五年未二月 佐一郎

溝口宿

喜助殿

右之通奉願上候、宜被 仰付可被為下
候、以上

大江村庄屋溝口宿

未二月 喜 助

西古治左衛門殿

御書写し 但し半紙ニ而

日野郡大江村

佐市郎

右者蠟座御用懸り蠟打出し被 仰付候
事

但御締合之儀も有之ニ付、米子藍
製場出張役より相改候様被 仰付
候間、御法嚴重相守可申事

この史料から、日野郡は米子蠟座から4里
(=16km)、遠い所では10里以上も離れてお
り、郡内で生産する樫実を米子に運送するに
は銀2匁から6匁までの費用がかかる、自分
(佐一郎)に蠟座御用懸を命じ、生蠟を一旦
米子蠟座に上納し下げ渡してくれたら、蠟燭
や煉油を郡内に安価で販売し、在方に役立っ
ようにしたい、日野郡には蠟座株がないので、

出雲などの隣国から蠟を購入するため、銀子
が他国へ流出しているのを、蠟を国産で売却
すれば国益になる、勿論運上銀は納めるので、
自分に蠟座株を許可してほしいと、居村の大
江村庄屋喜助を通じて願ったことが分かる。

この願いは許可され、生蠟は米子蠟座(藍
製場を兼ねていた)から出張した役人がこれ
を検査して買い上げ、そのあと同所で佐一郎
に下げ渡すことになった。なお許可の日付は、
鳥取藩在御用場記録「在方諸事控」によると、
蠟座奉行中野良助の了承を得た後の安政6
(1859)年8月11日であった⁶。

また同年12月5日には、蠟座奉行中野良助
からの相談を受け、奥・口日野両郡へ「然は、
其御郡ニて出来之樫実、米子蠟製場え差出
来候分は、是迄之通ニ候得共、其余他所え売
捌来居申分、并追々出来之分共、此已後左之
者(佐一郎ー引用者注ー)手前え持出し相当
之直段ニ売弘候様、村々え可被申渡候、尤他
所より不相当下直ニ買取、押買同様之姿ニ相
成候ては、自然小前之者共難渋致し候儀ニ付、
前廉直段及引合置売弘候様、素より過分相違
致し売事調兼候様之儀も有之候ハ、其段申達
候様、是又可被申渡置候」と、米子蠟製場へ
の分を除いた日野郡産の樫実を、適切な価格
で佐一郎に売却することが郡方役所から命じ
られている⁷。

その後、翌万延元(1860)年12月、佐一郎
は樫実買取代銀2貫目を藩から借用し、翌文
久元(1861)年7月までに生蠟を上納するこ
とを誓約している(同年同月「拝借仕御銀之
事」)。運上銀の割合は5歩(5%)であり、元
治元(1864)年には、万延元年から文久3年
までの蠟売却高銀7貫739匁6分8厘の運上
銀として銀札368匁9分8厘を、慶応2(1866)
年203匁7分8厘、同3年228匁3分8厘、

明治元(1868)年 68 匁 7 分 1 厘、同 2 年 350 匁 1 分 1 厘、同 3 年に 469 匁 3 分 1 厘を、それぞれ蠟座役所に上納した(年月日未詳「覚」)。

明治 3 (1870)「年 12 月、佐一郎は在方改革により蠟座の廃止を申し渡されたが、翌 4 年正月運上銀 500 匁を上納することで蠟座株を再願し、同年 5 月に日野郡役所より許可されている(明治 4 年正月「乍恐奉願上候口上之覚」)。

以上のように、幕末期に齊一郎は日野郡の蠟座株を取得し、蠟を郡内に売り捌いていた。蠟座株の取得は、彼が地域社会で商業・金融活動を展開する際の信用の担保となっただろう。初代齊一郎の経済活動については、本誌前号及び今号の概要目録内容紹介で述べたように、少なからぬ量の史料が残存している。その内容を分析し、今後とも矢田貝家文書の調査研究を深めていきたい。

(2013 年 2 月 21 日記)

【附記】調査に当たっては、矢田貝淑朗氏をはじめとする矢田貝家の皆様、鳥取県伯耆町教育委員会、矢田貝家住宅管理者の阿部禎男氏、鳥取県立公文書館、鳥取県立博物館の皆様にご多大のお世話になりました。記して御礼を申し上げます。

また本稿校正中の 2 月 27 日、矢田貝淑朗氏逝去(2 月 10 日)の報に接しました。淑朗氏には平成 24 (2012) 年 5 月 2 日に来室いただき、矢田貝家文書の段階的調査方法について説明したところ調査を快諾いただきました。また本文にも記したように、平成 24 年 6 月 10 日の調査メンバーとの会食の際には、概要調査の成果を熱心に聞いておられました。毎年秋には二十世紀梨をお送りいただき、室員一同美味しく賞味させていただきました。末尾ではありますが、ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

(とみぜん かずとし: 東京大学大学院経済学研究科学術支援専門職員・経済学部資料室員)

¹ 富善一敏「矢田貝家文書第一次調査概報」『東京大学経済学部資料室年報』2, 2012.3, p.104-109

² 「東京大学の研究室の方々来館」<<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?itemid=725603#itemid725603>>(参照 2013-02-21)

³ 「伯耆町で資料調査を実施(近世部会)」<<http://www.pref.tottori.lg.jp/item/761211.htm#moduleid347081>>(参照 2013-02-21)

⁴ 土蔵 2 階奥部屋押入西面床上の史料の配列状況については、前掲注 1 拙稿図 4 のスケッチを参照されたい。

⁵ 『鳥取県史』(第 5 巻・近世文化産業) 鳥取県, 1982.3, p.582-84

⁶ 『鳥取県史』(第 12 巻・近世資料) 鳥取県, 1979.1, p.1186 に、「御書付 日野郡之儀者生蠟払底之場所、是迄他所蠟而已ニて煉油蠟燭等高直ニ有之候処、近年蠟苗植付蠟実余程出来致し候処、左之者蠟打出し地払之儀願出候ニ付、願之通蠟座御用懸蠟打出被仰付、御締合之儀も有之ニ付、米子出張役より相改生蠟一旦御買上、於同所御払ニ被仰付候間、此旨可被申渡事日野郡大江村佐市郎」との記載がある。また佐市郎の蠟座株出願については、鳥取県編集『鳥取藩史 第六巻 殖産商工志・事変志』鳥取県立鳥取図書館, 1971.12, p.133 にも記載がある。

⁷ 同上 p.1240